

## Ⅱ 調査結果の概要

### 1 観光客の概況

#### (1) 総観光客数

① 平成22年の総観光客数

単位：万人，%

区分	平成22年	平成21年	対前年増減	対前年比
総観光客数	5,577	5,530	47	0.8

平成22年の総観光客数は、5,577万人で、平成21年と比べて47万人（0.8%）増加した。

主な増減で見ると、新型インフルエンザの影響がなかったことにより、一般客、修学旅行者、外国人観光客とも伸びている広島市が58万人増、大河ドラマ「龍馬伝」ゆかりの地「鞆の浦」を有する福山市が45万人増、連続テレビ小説「てっぺん」の舞台となった尾道市が33万人増加している。

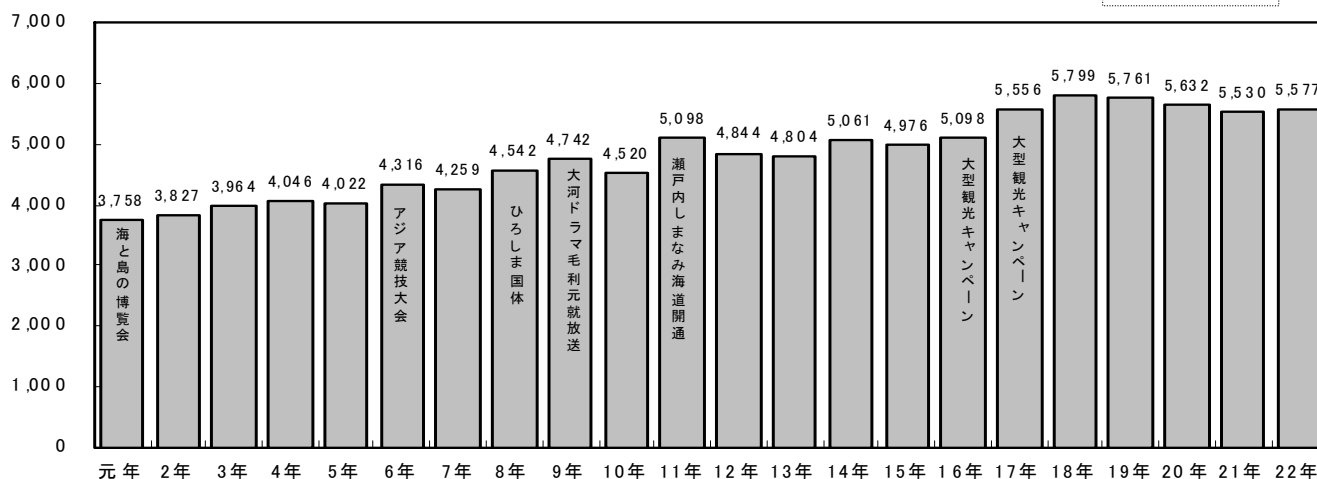
一方、主に中山間部の市町では、7月の集中豪雨とその後の猛暑による天候不順の影響で観光客数が減少したところが多い。

#### ② 総観光客数の推移

本県の総観光客数は、平成元年以降ほぼ順調に推移し、「瀬戸内しまなみ海道」が開通した平成11年には、はじめて5,000万人を上回った。また、大型観光キャンペーンの効果もあり、平成16年から平成18年は、3年連続して過去最高を更新したものの、平成19年以降、微減し続けていたが、平成22年は、4年ぶりに増加した。

図1 総観光客数の推移

単位：万人



単位：万人，%

区分	元年	2年	3年	4年	5年	6年	7年	8年	9年	10年	11年	12年	13年	14年	15年	16年	17年	18年	19年	20年	21年	22年
総観光客数	3,758	3,827	3,964	4,046	4,022	4,316	4,259	4,542	4,742	4,520	5,098	4,844	4,804	5,061	4,976	5,098	5,556	5,799	5,761	5,632	5,530	5,577
対前年比	13.2	1.8	3.6	2.1	▲0.6	7.3	▲1.3	6.7	4.4	▲4.7	12.8	▲5.0	▲0.8	5.4	▲1.7	2.5	9.0	4.4	▲0.7	▲2.2	▲1.8	0.8
元年基準の指数	100	101.8	105.5	107.7	107	114.8	113.3	120.9	126.2	120.3	135.6	128.9	127.8	134.7	132.4	135.7	147.8	154.3	153.3	149.9	147.2	148.4

(2) 市町・地区別観光客の状況

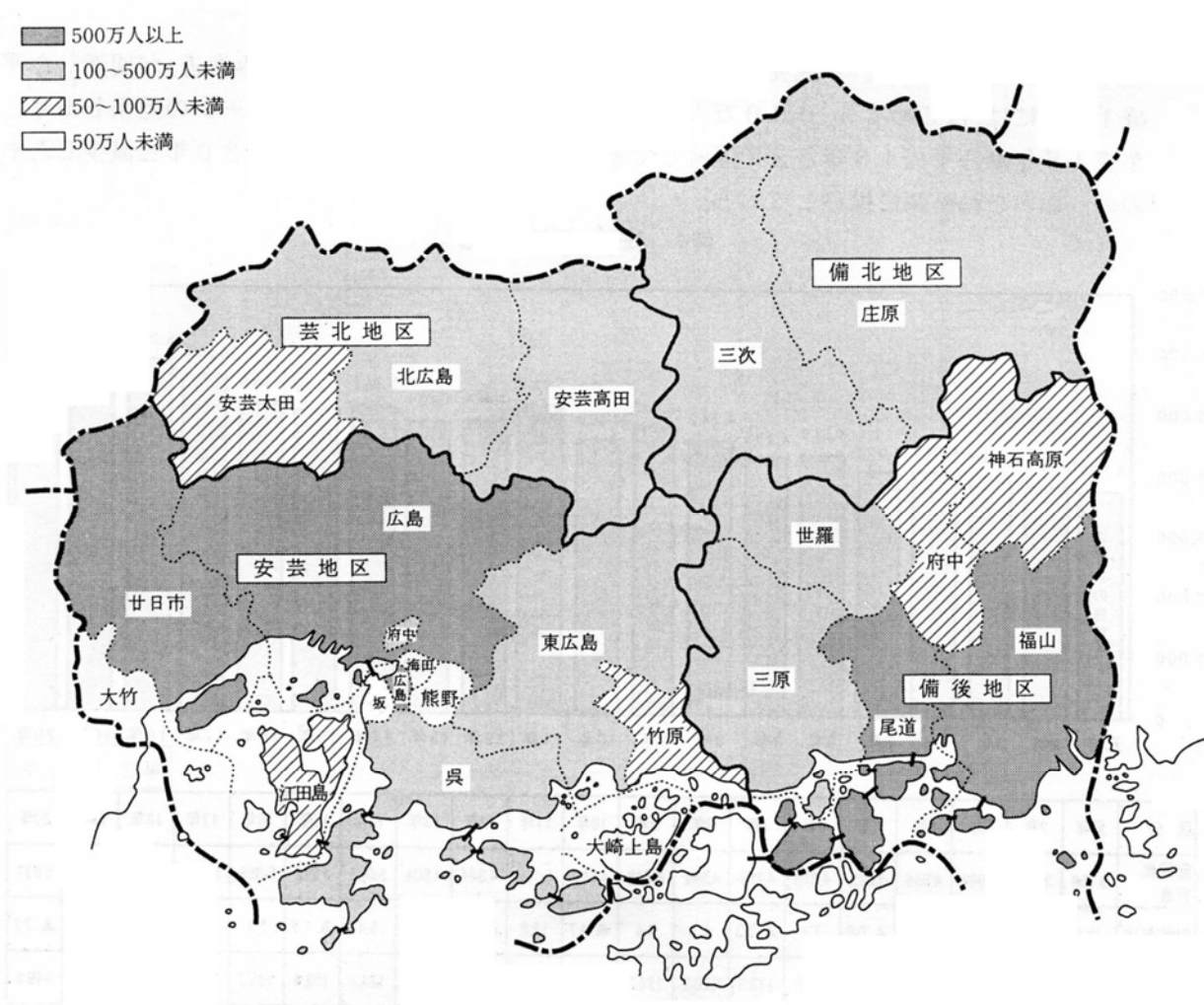
① 市町別総観光客数の状況

総観光客数	市町数	前年と比べて	
		増加した市町	減少した市町
500 万人以上	4 市	広島市, 福山市, 尾道市	廿日市市
100~500 万人未満	9 市町	三原市	呉市, 三次市, 東広島市, 北広島町, 庄原市, 世羅町, 安芸高田市, 府中町
50~100 万人未満	5 市町	竹原市, 江田島市	安芸太田町, 府中市, 神石高原町
50 万人未満	5 市町		大竹市, 坂町, 海田町, 熊野町, 大崎上島町,

総観光客数を市町別に見ると、広島市、福山市、廿日市市、尾道市などの瀬戸内海沿岸地域を中心に、総観光客数が多いことがわかる。

なお、前年に比べて総観光客数が増加した市町は 6、減少した市町は 17 である。

図 2 総観光客数の市町別状況



② 市町別総観光客数の順位（上位10位）

単位：千人，%

順位	市町名	平成22年	平成21年	対前年増減	対前年比	前年順位
1位	広島市	11,651	11,075	576	5.2	1位
2位	福山市	6,797	6,347	450	7.1	2位
3位	尾道市	6,180	5,849	331	5.7	3位
4位	廿日市市	5,816	5,839	▲23	▲0.4	4位
5位	呉市	4,205	4,300	▲95	▲2.2	5位
6位	三次市	2,761	2,840	▲79	▲2.8	6位
7位	東広島市	2,638	2,662	▲24	▲0.9	7位
8位	北広島町	2,466	2,560	▲94	▲3.7	8位
9位	庄原市	2,302	2,357	▲55	▲2.3	9位
10位	三原市	2,197	2,139	58	2.7	10位

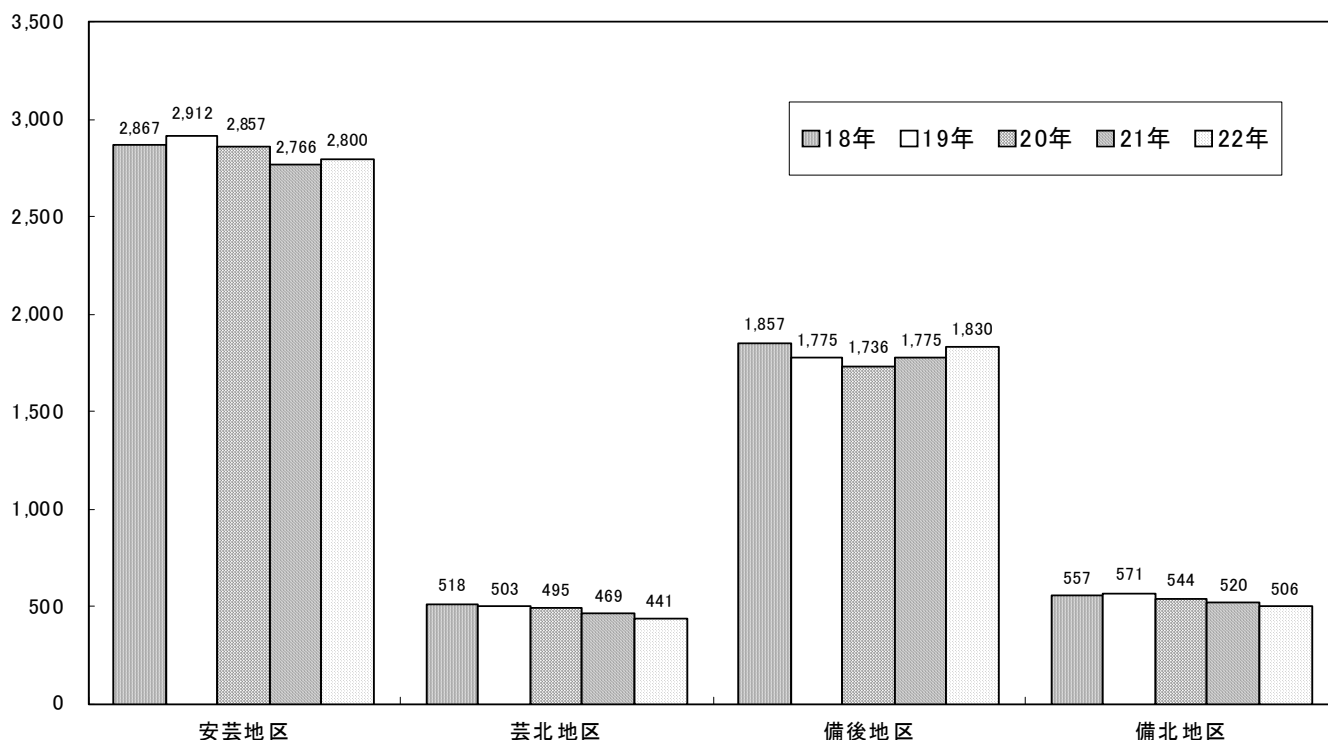
上位10市町の順位は前年と変わりなく、広島市、福山市、尾道市及び三原市が対前年比増となったが、廿日市市、呉市、三次市、東広島市、北広島町及び庄原市では減少となっている。

③ 地区別総観光客数の状況

地区別では前年と比べて、安芸地区が34万人（1.2%）、備後地区が55万人（3.0%）増加したが、芸北地区は28万人（▲6.3%）、備北地区は14万人（▲2.8%）の減となっている。

図3 地区別総観光客数の状況

単位：万人



### (3) 発地別観光客の状況

#### ① 県内・県外観光客の状況

単位：万人，%

区分	平成22年	平成22年構成比	平成21年	対前年増減	対前年比
県内	3,152	56.5	3,173	▲21	▲0.7
県外	2,425	43.5	2,357	68	2.8

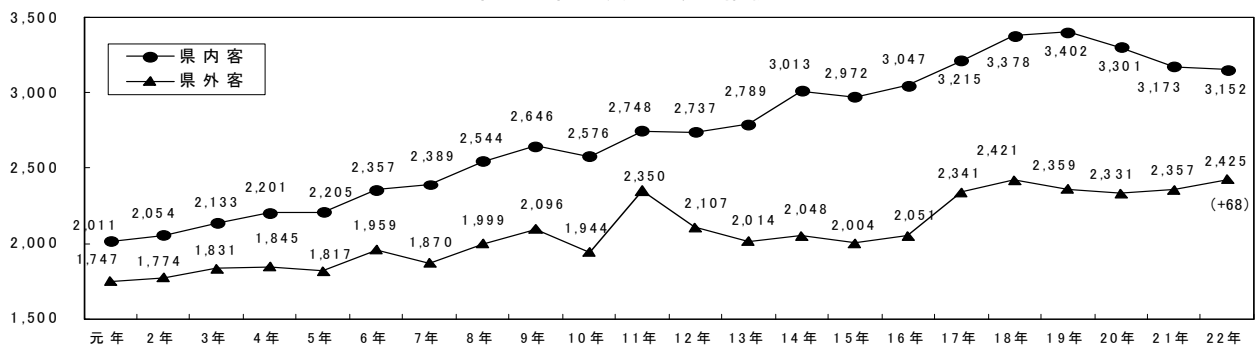
総観光客数に占める県内観光客の割合は56.5%，県外観光客は43.5%であった。

#### ② 県内・県外観光客数の推移

県外観光客数は前年比6.8万人増の2,425万人となり，2年連続で増加した。また，県内観光客（地元観光客を含む）数は，平成16年以降3,000万人台を維持している。

図4 県内・県外観光客数の推移

単位：万人

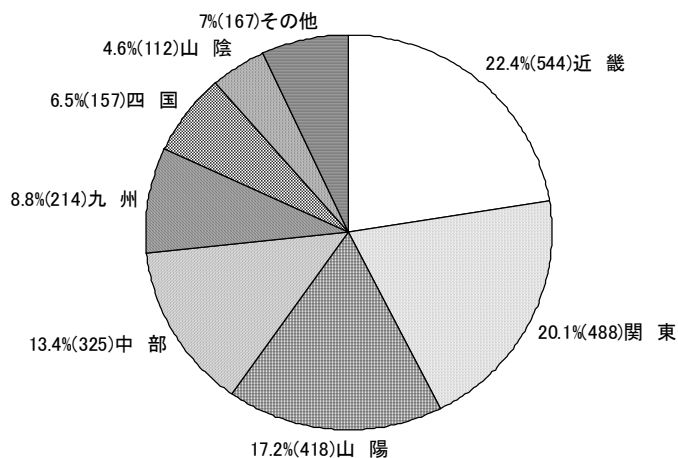


#### ③ 県外観光客の発地別状況

県外観光客を発地別にみると，「近畿地方」544万人（22.4%），「関東地方」488万人（20.1%），「山陽地方」418万人（17.2%），「中部地方」325万人（13.4%），「九州地方」214万人（8.8%），「四国地方」157万人（6.5%），「山陰地方」112万人（4.6%）の順になっている。

図5 発地別県外観光客数の割合

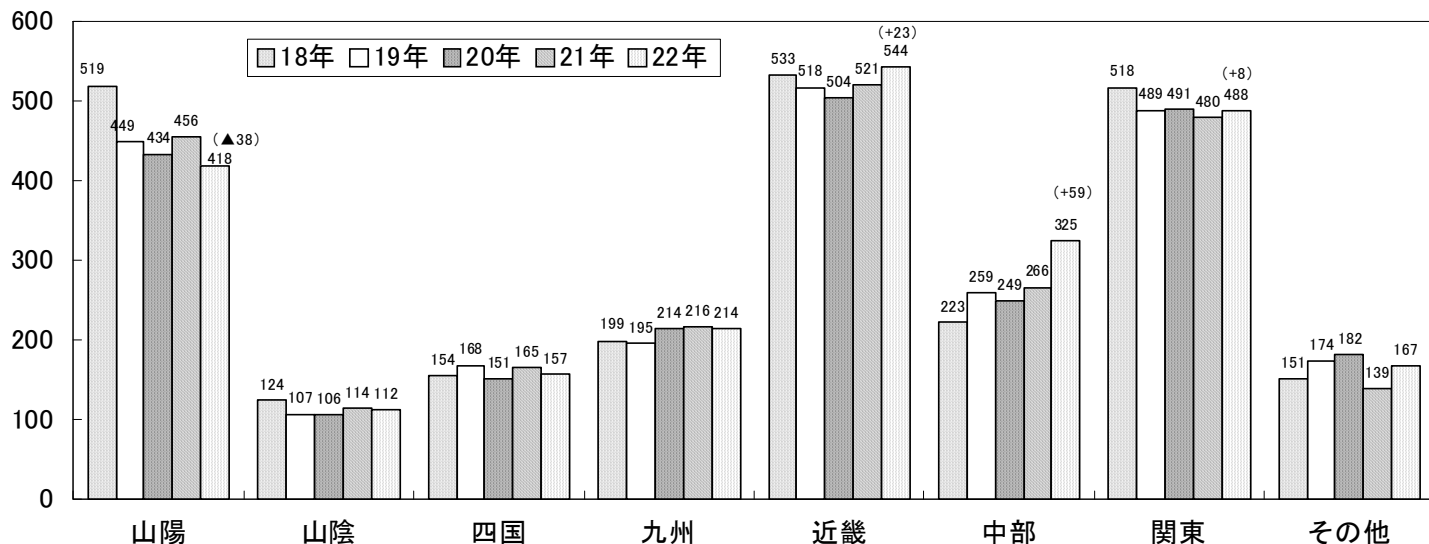
単位：万人



また、前年と比べた場合、「中部地方」から59万人、「近畿地方」から23万人、「関東地方」から8万人の増加となっている一方で、「山陽地方」は38万人の減少となっている。

図6 発地別県外観光客の状況

単位：万人

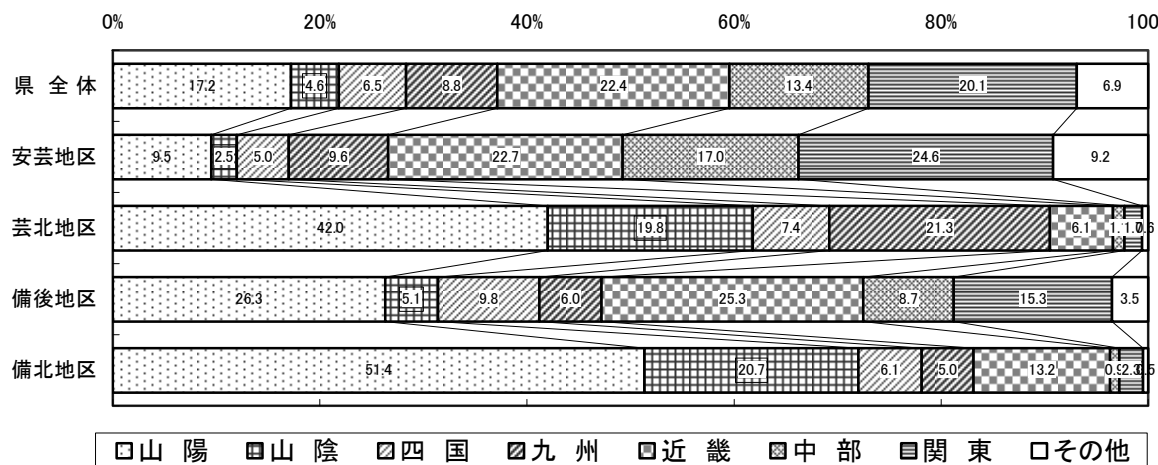


④ 地区別にみる発地別県外観光客の状況

安芸地区は「関東、近畿、中部地方」など大都市圏からの観光客が高い割合を占めている。また、芸北地区は「山陽、九州、山陰地方」から、備後地区は「山陽、近畿、関東地方」から、備北地区は「山陽、山陰、近畿地方」からの観光客が高い割合を占めている。

図7 県内各地区への県外観光客の発地別割合

単位：%

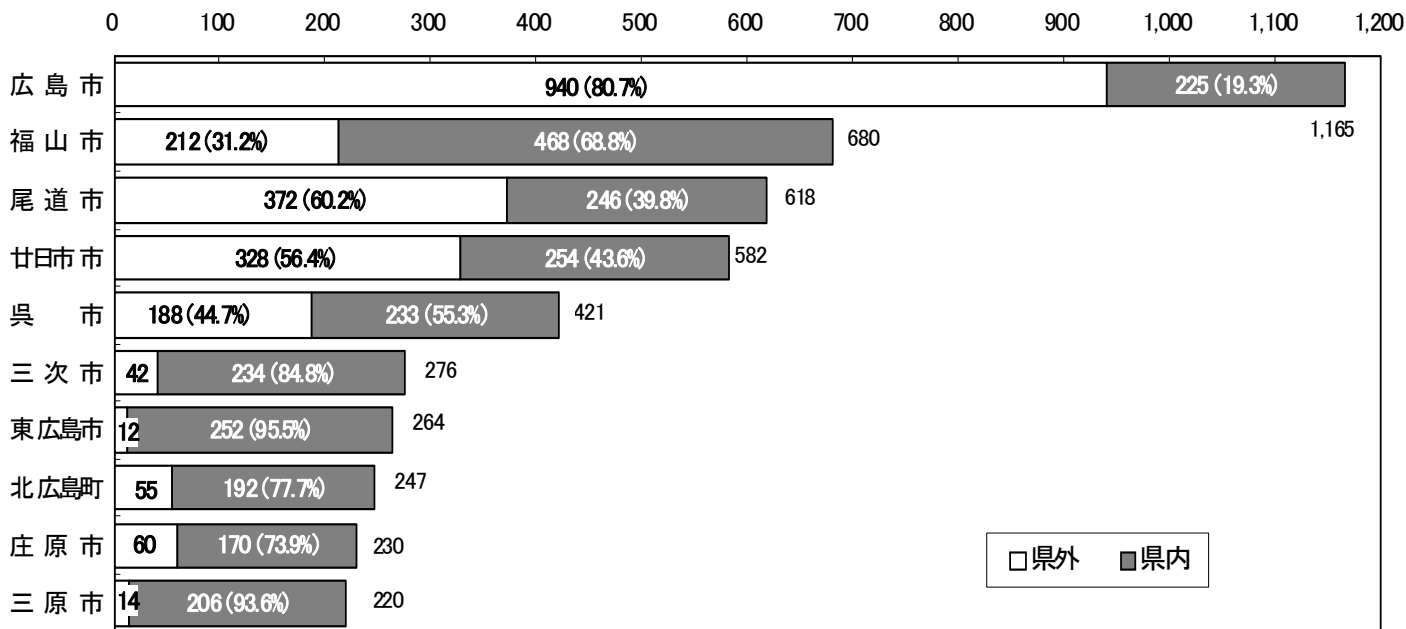


⑤ 市町別にみる県内・県外観光客の状況

観光客数の上位10市のうち、県外客の比率が県全体の平均43.5%を上回っているのは、広島市（80.7%）、尾道市（60.2%）、廿日市市（56.4%）、呉市（44.7%）の4市であった。

図8 市町別県内・県外別観光客数（上位10市町）

単位：万人

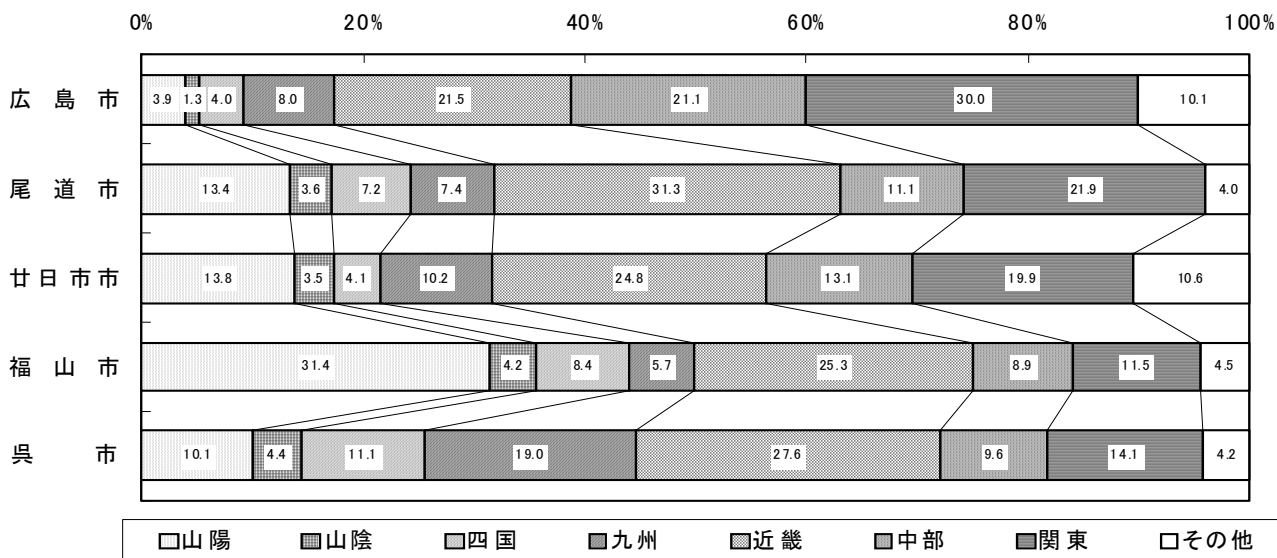


⑥ 市町別にみる県外観光客の発地別状況

県外からの観光客数が多い上位5市を見ると、広島市は「関東、近畿、中部地方」から、尾道市、廿日市市は「近畿、関東地方」から、福山市は「山陽、近畿地方」から、呉市は「近畿、九州地方」からの観光客が高い割合を占めている。

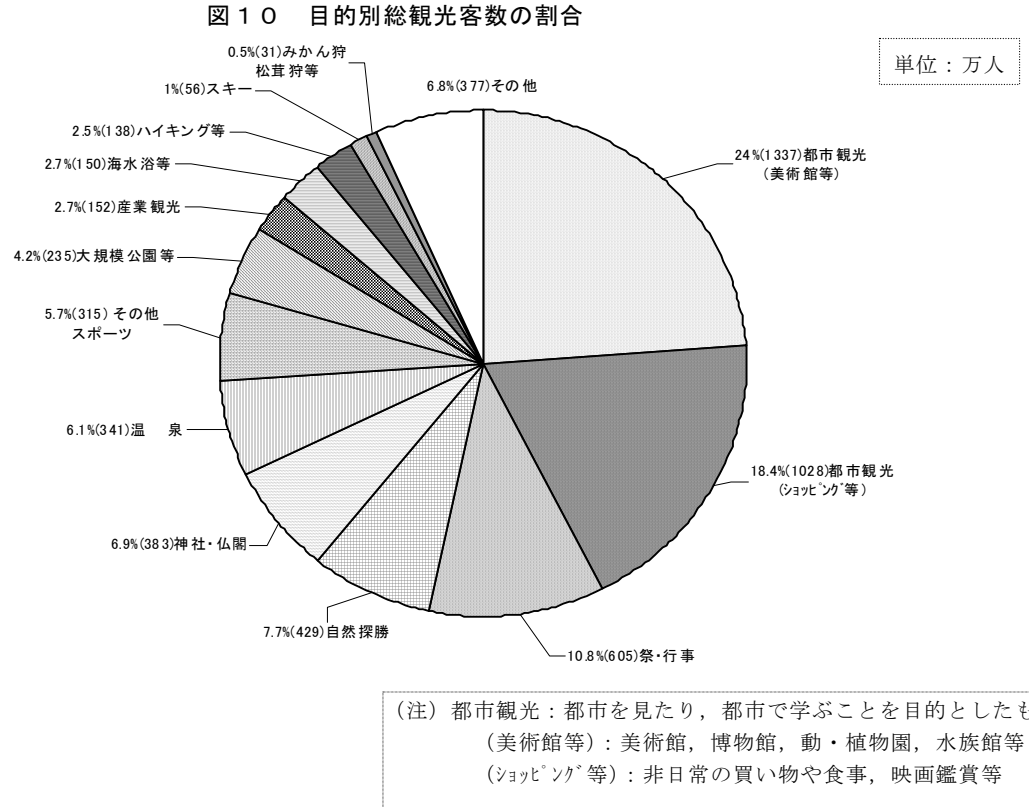
図9 市町別県外観光客の発地別割合（上位5市町）

単位：%

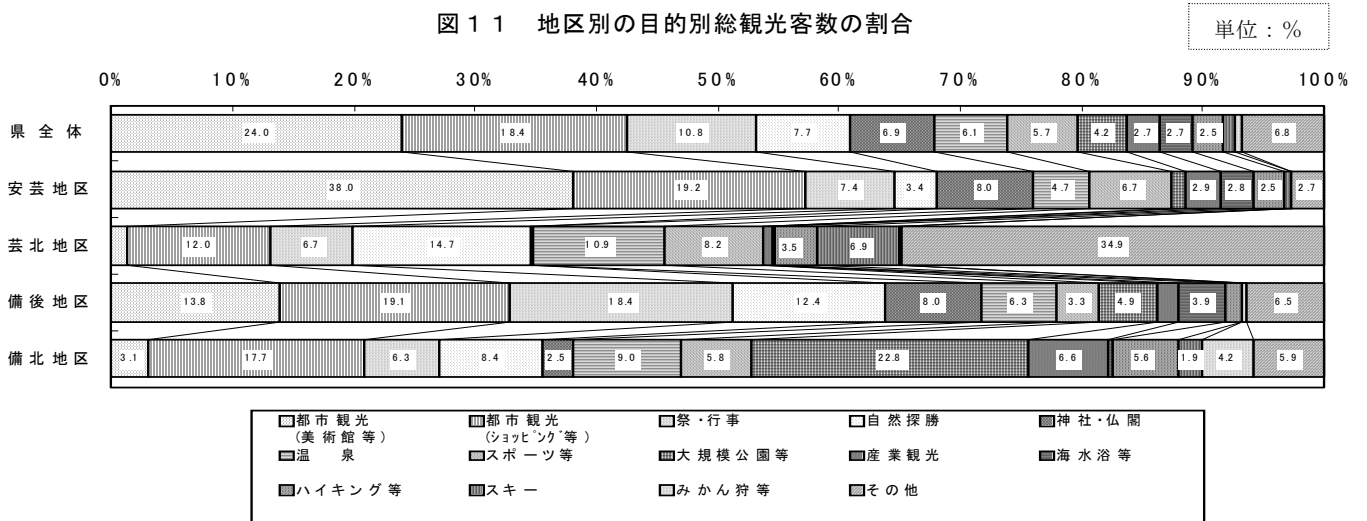


(4) 目的別観光客の状況

目的別では、「都市観光」が42.4%と最も高く（うち「美術館等」が24.0%、「ショッピング等」が18.4%）、次いで「祭・行事」の10.8%、「自然探勝」の7.7%となっている。



次に，地区別に目的別観光客の割合を見ると，安芸地区では「都市観光」（57.2%）が圧倒的に多く，芸北地区では「自然探勝」（14.7%）と「温泉」（10.9%），備後地区では「都市観光」（32.9%）と「祭・行事」（18.4%），備北地区では「都市観光」（20.8%）と「大規模公園等」（22.8%）が高い割合となっている。



(5) 旅行形態別観光客の状況

単位：万人，%

① 日帰り客・宿泊客の状況

区 分	日帰り客		宿 泊 客	
	観光客数	構成比	観光客数	構成比
安芸地区	2,298	82.1	502	17.9
芸北地区	427	97.0	13	3.0
備後地区	1,708	93.3	122	6.7
備北地区	467	92.3	39	7.7
広島県全体	4,901	87.9	676	12.1

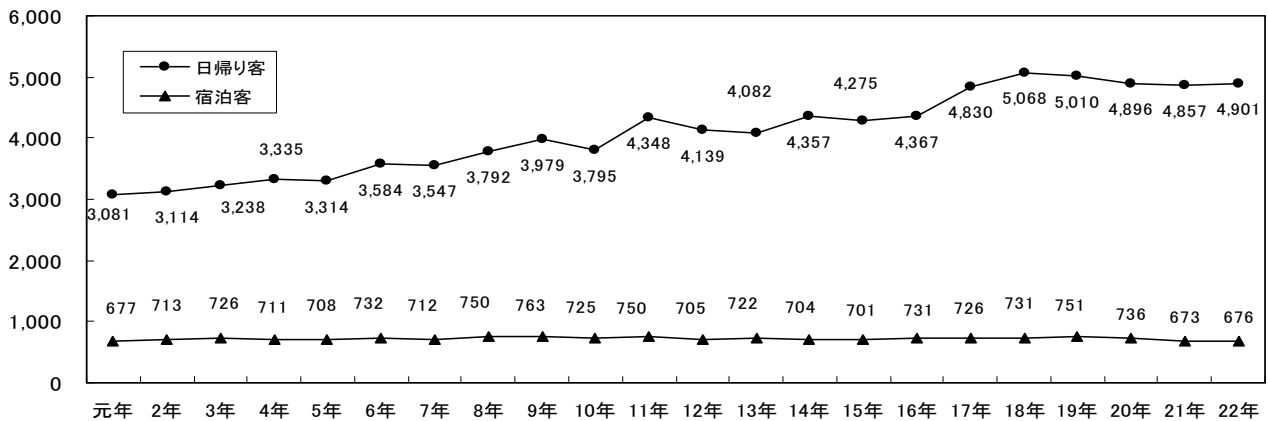
観光客数のうち日帰り客数は4,901万人(87.9%)、宿泊客は676万人(12.1%)となっている。

日帰り客を地区別にみると、安芸地区2,298万人、備後地区1,708万人、備北地区467万人、芸北地区427万人の順になっている。

また、宿泊客は、安芸地区502万人が県全体の7割以上(74.3%)を占めており、次いで備後地区122万人、備北地区39万人、芸北地区13万人の順になっている。

図12 日帰り客・宿泊客数の推移

単位：万人



② 一般客・団体客・修学旅行者<sup>(注)</sup>の状況

単位：万人

区 分	一般客		団体客		修学旅行者	
	観光客数	構成比	観光客数	構成比	観光客数	構成比
安芸地区	2,323	83.0	427	15.2	50	1.8
芸北地区	393	89.1	48	10.9	0	0.0
備後地区	1,586	86.7	239	13.0	5	0.3
備北地区	412	81.4	92	18.2	2	0.4
広島県全体	4,714	84.5	806	14.5	57	1.0

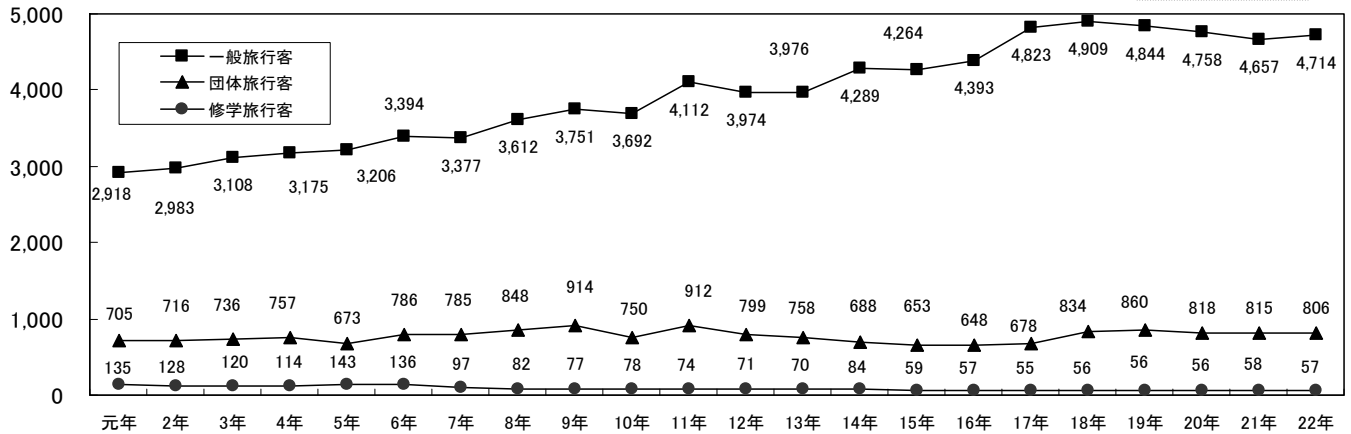
観光客数を一般客，団体客，修学旅行者別にみると，一般客が4,714万人と最も多く全体の84.5%を占めている。なお，団体客は806万人，修学旅行者は57万人となっている。

(注) 団体客：10人以上の団体旅行者，一般客：団体客，修学旅行者以外の旅行者



図 1 3 一般客・団体客・修学旅行客数の推移

単位：万人



(6) 交通機関別観光客の状況

観光客の利用交通機関をみると、自家用車を利用したいわゆる「マイカー客」が、3,312万人（前年比1.5%増）と最も多く、観光客全体の59.4%を占めている。

ついで、鉄道利用者が1,020万人（前年比1.3%増）、バス利用者が625万人（前年比0.8%減）となっている。

図 1 4 交通機関別総観光客の割合

単位：万人

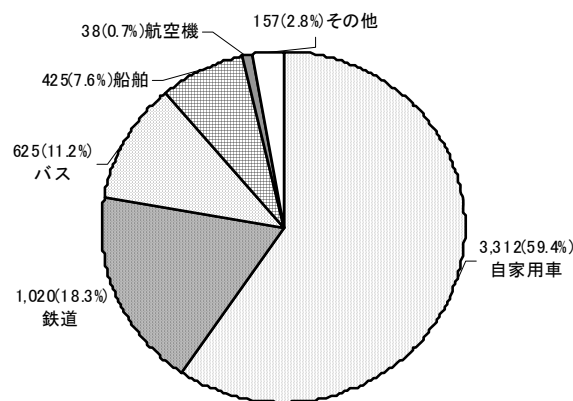
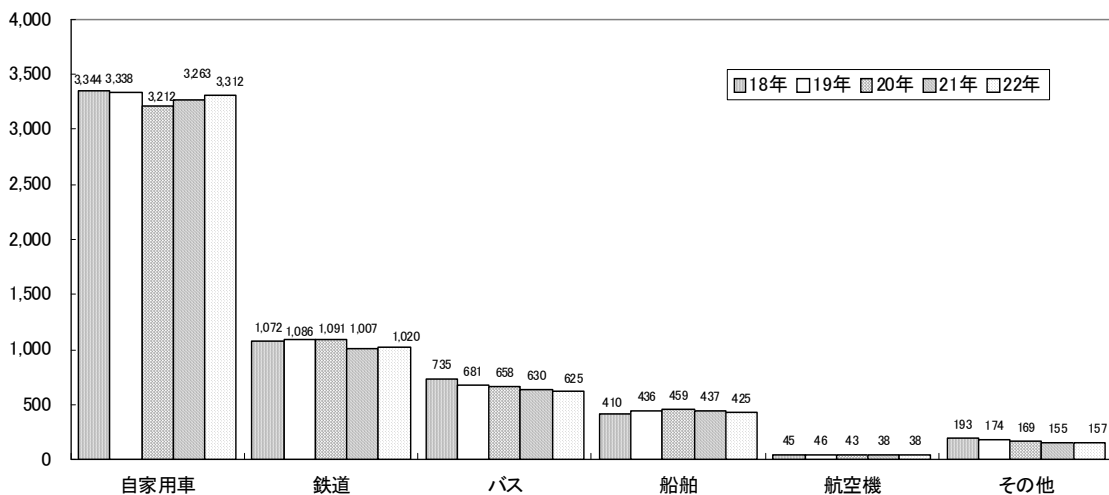


図 1 5 交通機関別総観光客の状況

単位：万人



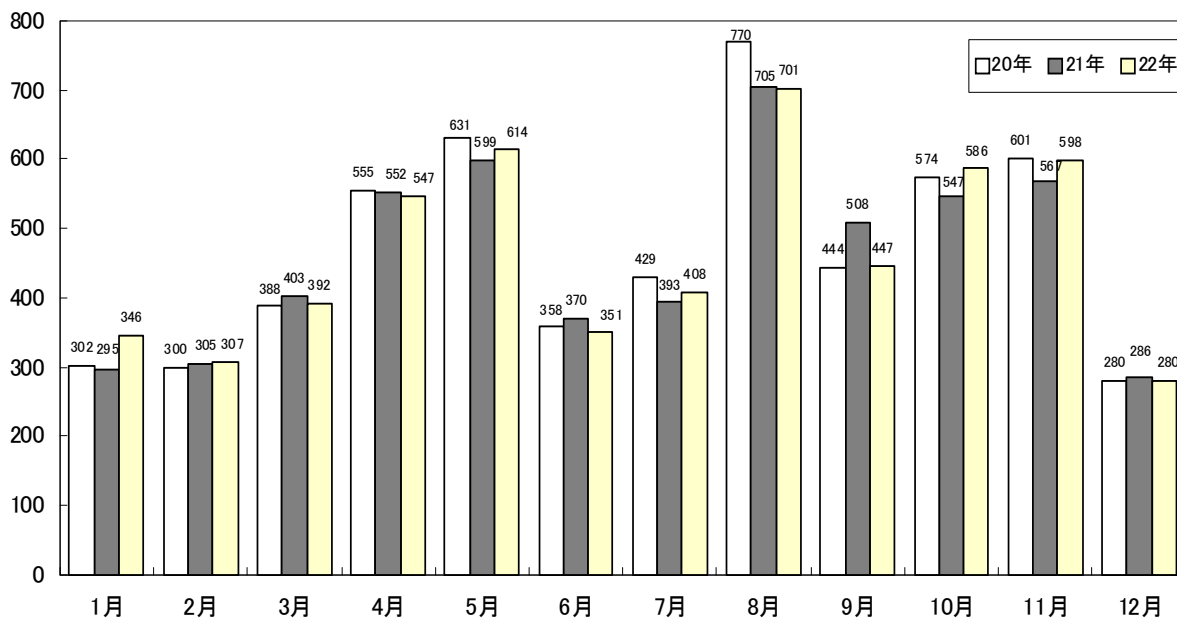
(7) 月別・季節別観光客の状況

① 月別総観光客数の状況

月別に見ると、最も観光客が多かったのは、8月の701万人、次いで5月の614万人、11月の598万人、10月の586万人、4月の547万人となっている。

図16 月別総観光客数の状況

単位：万人

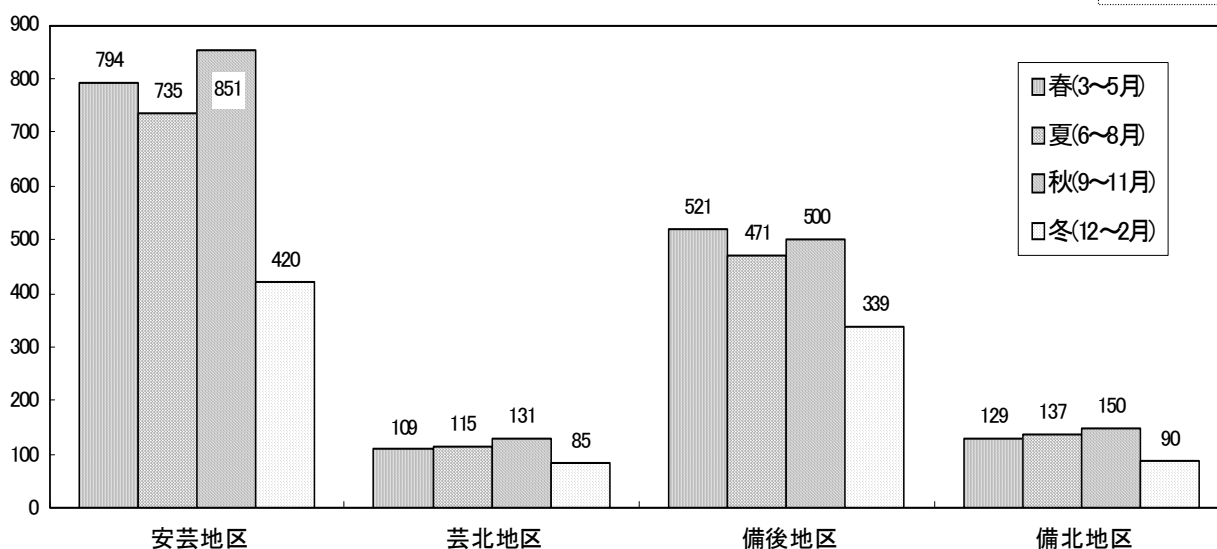


② 地区別・季節別総観光客数の状況

季節別に見ると、安芸地区、芸北地区、備北地区においては、秋に観光客が最も多くなっている。また、備後地区においては春に観光客が多くなっている。

図17 地区別・季節別総観光客数

単位：万人

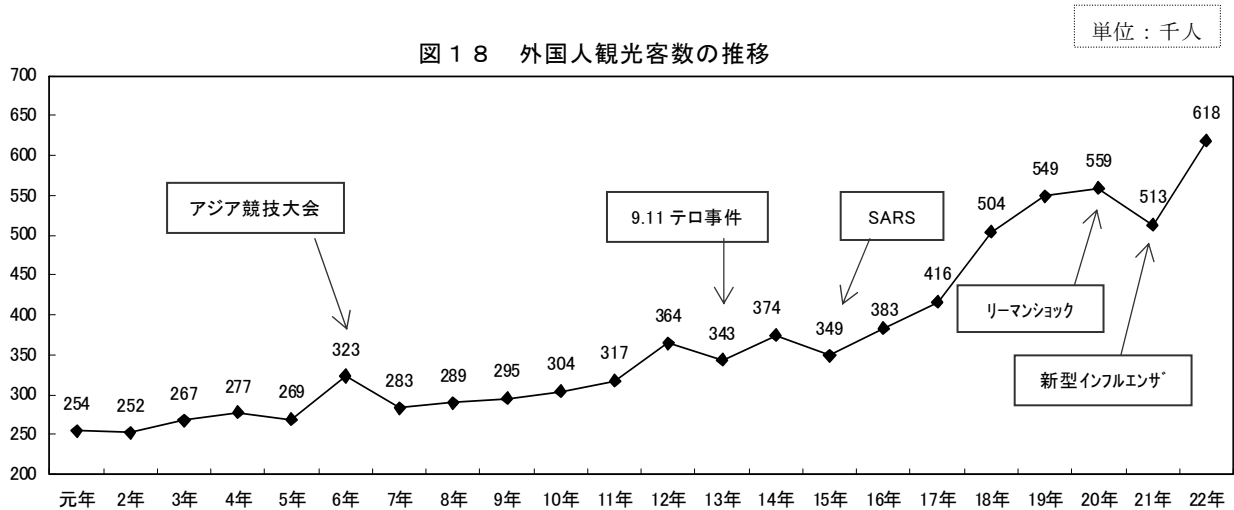


## 2 外国人観光客の状況

単位：千人，%

区分	平成22年	平成21年	対前年増減	対前年比
外国人観光客数	618	513	105	20.5

平成22年に本県を訪れた外国人観光客は618千人となっており，新型インフルエンザ等の影響があった前年と比べて105千人（20.5%）増加し，過去最高となった。

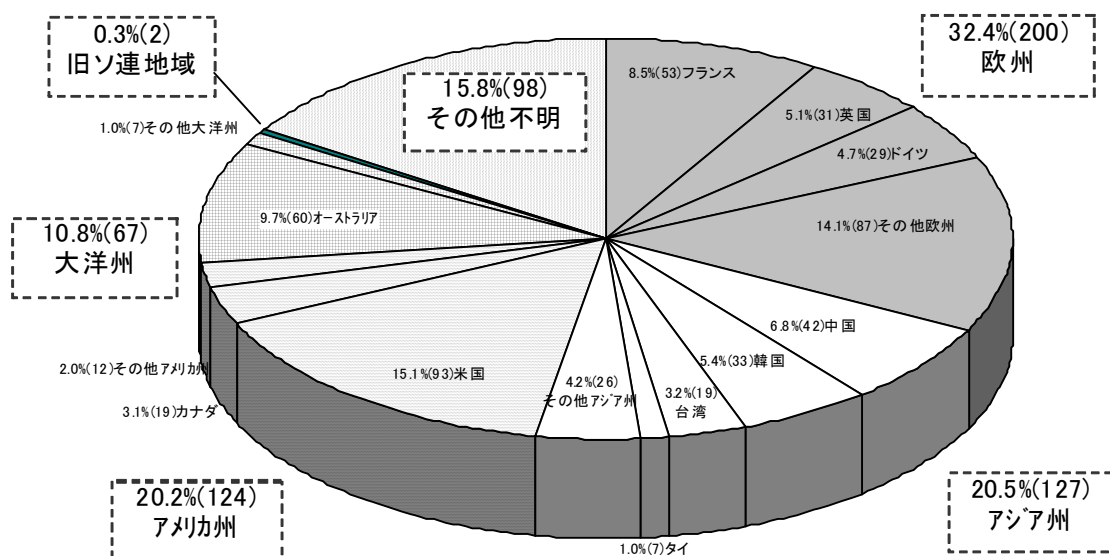


次に，地域別に外国人観光客の割合を見ると，欧州からの観光客が全体の32.4%を占めて最も高く，次いでアジア州が20.5%，アメリカ州が20.2%となっている。

なお，国籍別では米国が第1位（15.1%），第2位がオーストラリア（9.7%），第3位がフランス（8.5%）の順となっている。

図19 国籍・地域別外国人観光客の割合

単位：千人



### 3 観光客数及び観光消費額の状況

#### (1) 観光客数の推移

平成22年の総観光客数は5,577万人となり、そのうち入込観光客<sup>(注)</sup>は、前年に比べて9万人(0.2%)、県外観光客は68万人(2.9%)増加している。

また、地元(市町内)観光客は1,462万人で、前年に比べて38万人(2.7%)増加し、総観光客数に占める割合は26.2%となっている。

(注) 入込観光客：各市町を当該市町の区域外から訪れた観光客

単位：万人，%

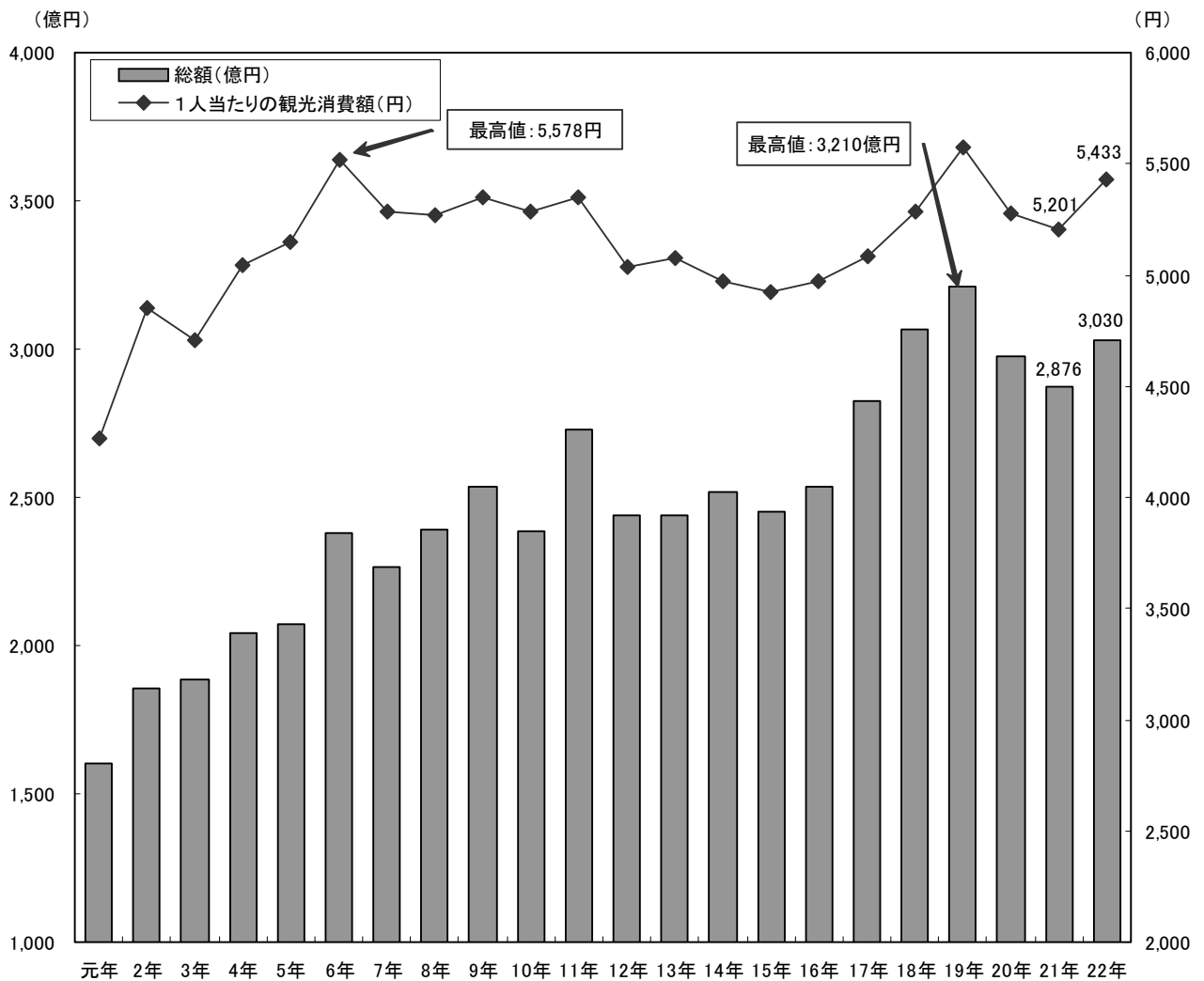
区分	年次	県内観光客			県外観光客 (C)	入込観光客 (B) + (C)	総観光客数 (A)+(B)+(C)
		地元観光客(A)	市町外観光客(B)	計(A)+(B)			
実 数	元年	656	1,355	2,011	1,747	3,102	3,758
	2年	667	1,387	2,054	1,774	3,161	3,828
	3年	696	1,437	2,133	1,831	3,268	3,964
	4年	711	1,490	2,201	1,845	3,335	4,046
	5年	749	1,456	2,205	1,817	3,273	4,022
	6年	817	1,540	2,357	1,959	3,499	4,316
	7年	836	1,553	2,389	1,870	3,423	4,259
	8年	893	1,651	2,544	1,999	3,650	4,543
	9年	900	1,746	2,646	2,096	3,842	4,742
	10年	898	1,678	2,576	1,944	3,622	4,520
	11年	960	1,788	2,748	2,350	4,138	5,098
	12年	984	1,753	2,737	2,107	3,860	4,844
	13年	1,042	1,747	2,789	2,014	3,761	4,803
	14年	1,126	1,887	3,013	2,048	3,935	5,061
	15年	1,081	1,891	2,972	2,004	3,895	4,976
	16年	1,162	1,885	3,047	2,051	3,936	5,098
	17年	1,212	2,003	3,215	2,341	4,344	5,556
	18年	1,433	1,945	3,378	2,421	4,366	5,799
	19年	1,434	1,968	3,402	2,359	4,327	5,761
	20年	1,415	1,886	3,301	2,331	4,217	5,632
	21年	1,424	1,749	3,173	2,357	4,106	5,530
	22年	1,462	1,690	3,152	2,425	4,115	5,577
構 成 比	元年	17.5 (32.6)	36.1 (67.4)	53.5 (100)	46.5	82.5	100
	2年	17.4 (32.5)	36.2 (67.5)	53.7 (100)	46.3	82.6	100
	3年	17.6 (32.6)	36.3 (67.4)	53.8 (100)	46.2	82.4	100
	4年	17.6 (32.3)	36.8 (67.7)	54.4 (100)	45.6	82.4	100
	5年	18.6 (34.0)	36.2 (66.0)	54.8 (100)	45.2	81.4	100
	6年	18.9 (34.7)	35.7 (65.3)	54.6 (100)	45.4	81.1	100
	7年	19.6 (35.0)	36.5 (65.0)	56.1 (100)	43.9	80.4	100
	8年	19.7 (35.1)	36.3 (64.9)	56.0 (100)	44.0	80.3	100
	9年	19.0 (34.0)	36.8 (66.0)	55.8 (100)	44.2	81.0	100
	10年	19.9 (34.9)	37.1 (65.1)	57.0 (100)	43.0	80.1	100
	11年	18.8 (34.9)	35.1 (65.1)	53.9 (100)	46.1	81.2	100
	12年	20.3 (36.0)	36.2 (64.0)	56.5 (100)	43.5	79.7	100
	13年	21.7 (37.4)	36.4 (62.6)	58.1 (100)	41.9	78.3	100
	14年	22.2 (37.4)	37.3 (62.6)	59.5 (100)	40.5	77.8	100
	15年	21.7 (36.4)	38.0 (63.6)	59.7 (100)	40.3	78.3	100
	16年	22.8 (38.1)	37.0 (61.9)	59.8 (100)	40.2	77.2	100
	17年	21.8 (37.7)	36.1 (62.3)	57.9 (100)	42.1	78.2	100
	18年	24.7 (42.4)	33.5 (57.6)	58.3 (100)	41.7	75.3	100
	19年	24.9 (42.2)	34.2 (57.8)	59.1 (100)	40.9	75.1	100
	20年	25.1 (42.9)	33.5 (57.1)	58.6 (100)	41.4	74.9	100
	21年	25.8 (44.9)	31.6 (55.1)	57.4 (100)	42.6	74.2	100
	22年	26.2 (46.4)	30.3 (53.6)	56.5 (100)	43.5	73.8	100

## (2) 観光消費額の状況

平成22年に、観光客が本県において交通費、宿泊料、みやげ品代、飲食代、入場料などに消費した観光消費額の総額は3,030億円で、前年に比べて154億円（5.4%）の増加となった。

また、観光消費額の総額を総観光客数で除した1人当たりの観光消費額<sup>(注)</sup>は、前年より232円（4.5%）増加し、5,433円となっている。

図20 観光消費額の推移



(注) 1人当たり観光消費額＝総観光消費額／総観光客数

なお、観光消費額については、各市町が推計したものの集計